令和８年度　長崎市立丸尾中学校　学校だより

まるお

＜学校教育目標＞
自ら学び　自他を尊重し
心豊かでたくましい生徒の育成

＜重点目標（スローガン）＞
感謝＋優しさ＝笑顔と幸せへの道
発行：長崎市立丸尾中学校
文責：校長　川口　猛
令和８年１１月２日（月）ＮＯ３２

＜道しるべ＞

一瞬のやる気ならだれでも持てる

けれども持続性のあるやる気は

深く認識したものだけに宿るのである

野村克也

ＡＩ学習ソフト　キュビナ
使用の仕方をひと工夫してみよう

授業や家庭学習でも使用しているキュビナ。これは、ＡＩ学習ソフトで、学習を重ねていくうちに、どこが理解できていないかをＡＩが判断し、理解不足の内容のところまで自動的にさかのぼる機能を有しています。残念ながら、国語、社会、数学、理科、英語の５教科しかないのですが、授業の中で、自主的に問題演習をする時間を与えられると、このキュビナを直ぐに開いて学習する生徒が大勢います。小学校から継続して称していることから、抵抗感もなく、すっと入ることができる教材です。出題の仕方も様々で、画面に書いて解答する方法もあれば、選択肢の中から選ぶ方法もあります。

さて、このキュビナですが、タブレットで解くので、いつでも、どこでも、Wi-Fi 環境があれば、取り組むことができます。非常に手軽な優秀な教材と思います。しかし、授業を回ってこのキュビナの使用の仕方を見てみると（本校だけでなく、前任校でも）もう少し工夫するともっと効果が上がるのにな・・・と思う場面が多々あります。全国学力・学習状況調査もすべて、タブレットで回答する方式に変化しますが、タブレットを使用して学習をするときに、私は、一つだけ懸念することがあるのです。決して、キュビナというソフトが悪いというのではなく、使うのならば、＋α　工夫をすると効果が出ると感じるので、そのことを本号では、ふれてみたいと思います。まくまで、私見でありますので、参考程度にとどめ、最終的な仕様の仕方は、各ご家庭・本人が決めてほしいと思います。

まず、最初に、このようなタブレットドリルは、タブレットの画面上に書き込みます。書き込むことは、学習内容が理解度に応じて変化していくため、それは大変効果がある方法です。教育界では、難しいことばですが、『個別最適化』といいます。その意味で、大変有効な教材です。私は、社会科の免許をもっていますが、社会科の問題も、厳しいところを突く問題もあれば、基礎的な問題もあり、多様な問題を出してくれます。問題自体は、良い問題が多いと感じています。

ただ、画面に書き込んでいる生徒の様子を見てみると、次のような場面を目にするのです。

〇手で書き込む。（あまりタブレットのペンを使用しているのは見たことがない）
〇タブレット画面なので、さらっと触れるくらいの筆圧で書く。
〇消しゴム機能を使用するが、きれいに消さなくても、新たに書き込めばタブレットが新しく書き込んだものと判断し、正解・不正解の結果が出る。
〇問題を解いて不正解だった時に、画面を消しゴムで消して画面に書き直しますが、数学などは、途中の計算式まで消してしまうので、どこで自分が間違ったかがわからない。
〇書く問題も、常用漢字でわかるように書けばよいが、さらっ、さらっとのなぞるように書くので、きちんと明確な漢字には見えないが、ＡＩは、その漢字だろうと予測して丸にしてしまう。
〇国語の漢字だけでなく、社会科における漢字も同じように、ＡＩが予測して判断し、正解になる。
〇繰り返し問題を出す設定の部分で、その設定が正しく設定されていないために、永遠と問題が出され続け、終わらない。

そこで、キュビナなどのＡＩドリルをもっと有効に使って、学力を上げる方法がないかを私なりに考えてみました。賛否両論あると思います。無駄を省くという視点からは、今から提案する考えは反対になるでしょうし、理解するためには、『途中』を大事にしたり、ある程度の正しさを優先するならば、これからの提案には賛成かもしれません。

私が、提案するキュビナ活用方法改編版

●キュビナの問題の中で、画面の中に書き込む必要がある問題に対しては、ノートにも書く。そのうえで、解が出たら、タブレットに書き込む方法です。効率が悪いと言われれば、反論できませんが、私はベストとまではいいませんが、ベターな方法と考えています。（下記の根拠を見てください）

●ＡＩドリルとはいっても、結局は、問題集と同じなので、アナログの問題集ならば、その問題集の中に書き込んだり、ノートに書いて答えを出したりするので、アナログ問題集の使い方を少し取り入れてみる方法です。アナログの問題集も、問題によっては、問題を解く途中を書くスペースが狭かったりします。そのようなケースに直面したら、以前は、別のものに書いて解答を出していたと思います。その方法を、ノートという形で対応するのです。（デジタル＋アナログ）

●選択問題とかは、別にノートに記入する必要がないので、タブレットに直接書き込む。

●ノートは、家庭学習の結果となる。

以上が私の私見です。根拠ですが、それは、国語・数学で特に感じたことです。

国語科は、やはり、入試を考えたとき、今は、自分の考えを整理して書いたり、まとめて文章にしたり、単なる平凡な問題から、知識・技能に思考・判断・表現の要素を必要とする問題が出題されますし、『書かせる』問題が増えてきています。きちんとした字をかけなければ、大意が正解であっても、使う字が誤りであれば、不正解にはならないか？という危惧があります。また、入試だけが根拠ではありません。今は、入学願書などもデータ入力だったりするのですが（私立高等学校、大学等）、履歴書を書いたり、退職願を書いたり、宣誓書を書いたりする様々な場面では、直筆が求められることはかなりあります。役所に行って、いろんな証明書の発行願いも書かなければいけませんし、諸届（婚姻届け、離婚届、出生届、死亡届、罹災証明書など様々）は直筆です。もしかしたら、間もなくデータ入力になるという時代が来るのかもしれませんが、しばらくは、直筆を求められる時代は続くと考えます。タブレットでは、自動入力機能があるので、一文字入力したら、あとは、機能でずばっと入力完了するから、住所なんて覚えなくても済みます。しかし、直筆だと住所が書けないという状況もあると聞いたことがあります。住所を細かく覚えなくても、タブレットが記憶してくれるので、覚える必要がないわけです。しかし、各場面はあるのですから、私は、『書く』ことは必要だと感じます。社会人になったときに、字を正しく書けることは、必須条件だと思います。

あと一つは数学です。数学の計算問題ですが、正負の数であれ、文字式の計算であれ、方程式であれ、関数であれ、暗算でできるものではありません。途中の計算式が残っていなければ、どこで間違えたのかわからないということになります。面倒でも途中の計算式を書くことは、地道ながら、数学の得点を伸ばす特効薬だと考えます。しかし、タブレットでは、消しゴム機能で消すと、残るところは残りますが、なにせ指で書くので、行を正しく、きちんと順番がわかるように書けていません。なにせ、タブレットに書く文字の大きさは、大きいので、途中の計算が残らないわけです。どこが間違いなのか？どこが課題なのか？については、前号のメタ認知でも重要だと指摘しました。その認知が活用できないくなるのではないかとも考えます。数学では、難易度が高いのが、面倒くさい、『証明』です。証明なんて、書かなければ解答になりません。私は、昭和の人間なので、共通一次試験（今でいうセンター入試）を受けましたが、証明のような問題も文章中に（　　）があり、そこに数値を入れるだけです。だから、証明をするための段取りというか、流れというかそれが既に書いてあるので、マークシートの数学ばかり解いていたら、いざ、記述式の問題になると解き方が頭に浮かばず、大変困った経験をしました。数学的思考・判断・表現は、このような証明や、途中の計算式を書きながら、公式を使って最後は答えを出す問題も多いので、やはり、『書く』ことは大切にした方が、より深い部分で力になると考えます。考えが昭和的で、古いのかもしれませんが、ヨーロッパでは、既に、デジタルからアナログに切り替えているとも聞きます。

キュビナはいい問題です。だからこそ、『書く』ことをともにやって、問題を解いてみてはいかがでしょうか？